会報

第127号

公益社団法人
日本海海難防止協会

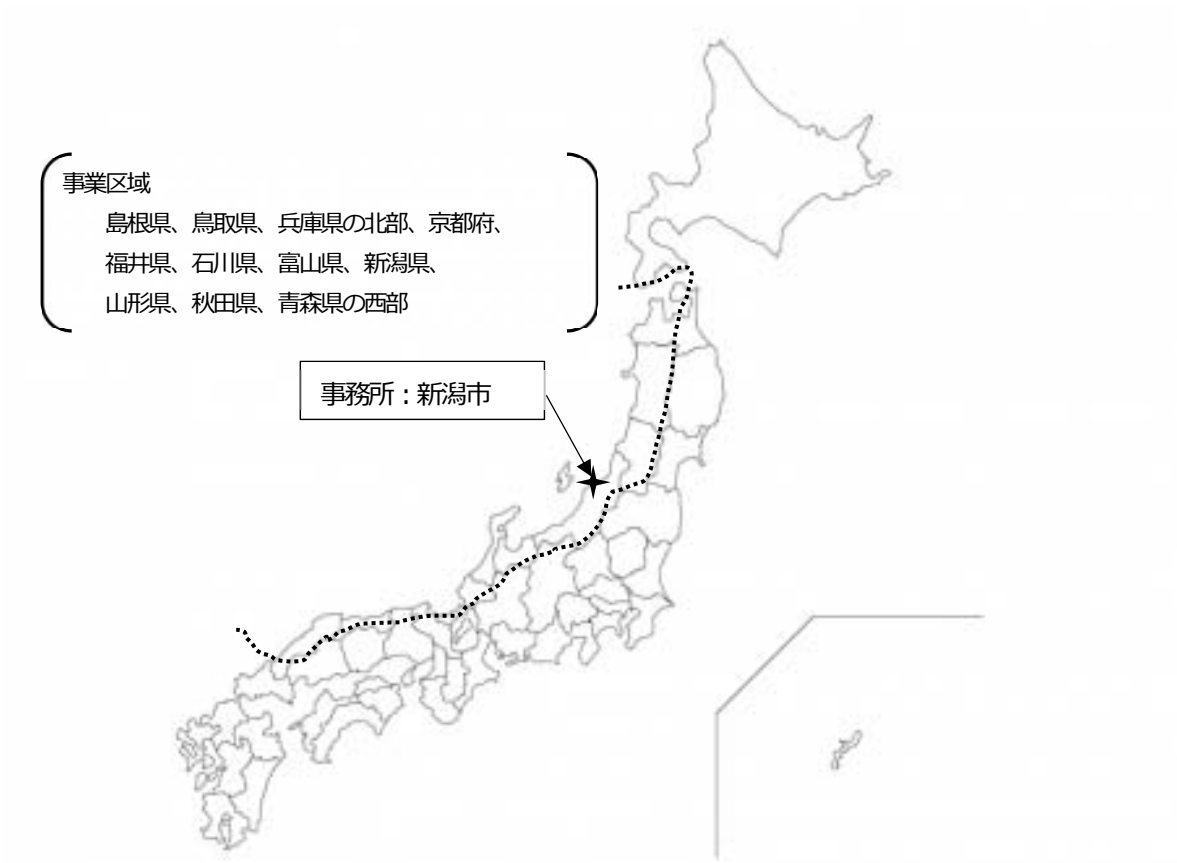
日本海海難防止協会は、本州日本海沿岸(山口県を除く)及び付近水域における、海上交通の安全に寄与するため、次の事業を行っております。

(1) 船舶の航行安全及び海難防止に関する事項の調査研究

(2) 船舶の航行安全に関する教育指導及び情報の提供

(3) 海難防止に関する事項の周知宣伝

(4) その他本協会の目的を達成するために必要な事業



【公益社団法人　日本海海難防止協会が行う事業区域図】

アクセス

○新潟駅(JR 信越線)から

徒歩　約 25 分、ﾀｸｼｰ利用　約 10 分、

ﾊﾞｽ利用　新潟交通　北ふ頭　約 20 分

北ふ頭　停留所下車徒歩約 5 分

○新潟空港から

ﾀｸｼｰ利用　約 20 分、ﾊﾞｽ利用　北ふ頭　約 20 分

○車

国道 113 号線竜が島郵便局前交差点を左折直進、

信号を一つ通過後右折し約 50m

目　　次

Ⅰ　事 業 報 告

Ⅰ－１　調査研究 1

１　酒田港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査 1

1-1　第１回委員会 1

２　鳥取港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査 2

2-1　第１回委員会 2

３　秋田県北部洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査 3

3-1　第１回委員会 4

3-2　視認シミュレーション 4

４　日本海西部海域における簡易型ＡＩＳ普及に関する調査研究（福井県・京都府及び兵庫県地区） 5

4-1　第１回委員会 5

５　境港（外港昭和南地区）大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討 6

5-1　第１回委員会 6

Ⅰ－２　全国海難防止強調運動の推進 7

１　日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議 7

２　東北地方海難防止強調運動推進連絡会議 9

３　海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議 11

Ⅱ　会 務 報 告

Ⅱ－１　令和元年度１回理事会 13

Ⅱ－２　令和元年度通常総会 15

Ⅱ－３　令和元年度２回理事会 18

Ⅱ－３　業務日誌抄 19

Ⅱ－４　業務予定 20

Ⅲ　海保安全情報

東北地方における海の事故ゼロキャンペーンの活動について 21

海の今を知るために 25

自律型海洋観測装置（ＡＯＶ）による観測のお知らせ 26

Ⅳ　寄 稿 欄

意宇六社巡り　－その３－ 27

Ⅰ　事 業 報 告

Ⅰ－１　調査研究

１　酒田港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委　員」
　矢吹　英雄　　東京海洋大学　名誉教授
　髙橋　　勝　　海上保安大学校　名誉教授
　松田　洋和　　一般社団法人日本船長協会　副会長
　松浦　安洋　　酒田水先区水先人会　会長
　佐藤　　祐　　酒田海陸運送株式会社　取締役営業部長
　阿部　　紳　　日本通運株式会社　酒田支店　酒田海運営業所長
　髙橋　芳彦　　酒田共同火力発電株式会社　取締役管理部長
　川口　良助　　酒田石油基地協議会　会長
　佐藤　昭浩　　酒田曳船株式会社　海務監督
　西村　　盛　　山形県漁業協同組合　参事
　齋藤　賢作　　特定非営利活動法人　山形県小型船舶安全協会　会長
「関係官公庁」
　第二管区海上保安本部　交通部
　酒田海上保安部
　東北地方整備局　港湾空港部
　山形地方気象台
　酒田市　地域創生部　商工港湾課

1-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和元年５月 16 日(木)
(2)　場　　所：酒田市　ホテルリッチ＆ガーデン酒田
(3)　議　　題：
　①　港湾計画改訂の計画案について
　②　調査・検討の計画(案)について
　③　酒田港の現況について
　④　航行環境について

２　鳥取港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

寺本　定美　　海上保安大学校　名誉教授
奥田　邦晴　　国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校　名誉教授
松田　洋和　　一般社団法人日本船長協会　副会長
森脇啓治郎　　境水先区水先人会　会長
眞木　　崇　　境港海陸運送株式会社　海運事業部　次長
長野　達夫　　日本興運株式会社　鳥取支店　支店長
松岡　達也　　鳥取県漁業協同組合　賀露支所　販売課　課長
森本　賢治　　有限会社鳥取マリーナ　代表取締役

（オブザーバー）

坂口　恒久　　境水先区水先人会　副会長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
境海上保安部
鳥取海上保安署
中国地方整備局　港湾空港部
中国地方整備局　境港湾・空港整備事務所
中国運輸局　鳥取運輸支局
鳥取地方気象台

2-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和元年７月４日（木）
(2)　場　　所：鳥取市　ホテルモナーク鳥取
(3)　議　　題：
　①　港湾計画改訂の計画案について
　②　調査・検討の計画（案）について
　③　鳥取港の現況について
　④　航行環境について

３　秋田県北部洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

矢吹　英雄　　東京海洋大学　名誉教授
髙橋　　勝　　海上保安大学校　名誉教授
松田　洋和　　一般社団法人日本船長協会　副会長
高橋　福治　　秋田船川水先区水先人会　会長
西宮　公平　　秋田海陸運送株式会社　代表取締役社長
柏屋　　敬　　日本通運株式会社　秋田港支店　支店長
與語　奨太　　能代運輸株式会社　専務取締役
藤田　範生　　東北電力株式会社　能代火力発電所　所長
大森　　弘　　株式会社ダイニチ　専務取締役
加賀谷　弘　　秋田県漁業協同組合　代表理事組合長
佐藤　　優　　秋田県漁業協同組合　若美支所　若美地区運営委員長
鎌田　幸博　　秋田県漁業協同組合　北浦総括支所　北浦地区運営委員長
大髙　光晴　　能代市浅内漁業協同組合　代表理事組合長
田中　保則　　三種町八竜漁業協同組合　代表理事組合長
齋藤　修市　　秋田県小型船舶安全協会　会長

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部　交通部
秋田海上保安部
東北地方整備局　秋田港湾事務所
秋田地方気象台
秋田県産業労働部　資源エネルギー産業課
秋田県建設部　港湾空港課
秋田県農林水産部　水産漁港課
秋田市産業振興部　産業企画課
能代市環境産業部　商工港湾課
男鹿市総務企画部　企画政策課
三種町　企画政策課

3-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和元年６月 26 日(水)

(2)　場　　所：秋田市　ホテルメトロポリタン秋田

(3)　議　　題：

①　洋上風力発電事業計画について

②　調査・検討の計画(案)について

③　周辺海域及び港湾について

④　ウィンドファームの視認性について

3-2　視認シミュレーション

(1)　開 催 日：令和元年７月 18 日(木)

(2)　場　　所：東京都　株式会社MOＬマリンシミュレータ室

４　日本海西部海域における簡易型ＡＩＳ普及に関する調査研究
（福井県・京都府及び兵庫県地区）

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

日當　博喜　　海上保安大学校　名誉教授
三原　　正　　日本小型船舶検査機構　舞鶴支部長
上野　善洸　　舞鶴水先区水先人会　会長
中川　浩一　　福井県漁業協同組合連合会　専務理事
西川順之輔　　京都府漁業協同組合　代表理事組合長
塩谷　政人　　兵庫県漁業協同組合連合会　但馬支所　支所長
山本　時夫　　福井県小型船交通安全対策協議会　事務局長
山田　悦子　　京都府小型船安全協会　事務局長
嶋崎　輝光　　但馬海上安全協会　庶務担当役員

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
敦賀海上保安部
舞鶴海上保安部
北陸総合通信局　無線通信部
近畿総合通信局　無線通信部
中部運輸局　福井運輸支局
近畿運輸局　京都運輸支局
水産庁　境港漁業調整事務所
福井地方気象台
京都地方気象台
福井県　農林水産部
京都府　水産事務所
兵庫県但馬県民局　但馬水産事務所

4-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和元年７月 10 日(水)
(2)　場　　所：舞鶴市　舞鶴グランドホテル
(3)　議　　題：
　①　調査・研究の計画(案)について
　②　海難の状況について
　③　気象・海象の状況について

５　境港（外港昭和南地区）大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

寺本　定美　　海上保安大学校　名誉教授
奥田　邦晴　　国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校　名誉教授
松田　洋和　　一般社団法人日本船長協会　副会長
森脇啓治郎　　境水先区水先人会　会長
眞木　　崇　　境港海陸運送株式会社　海運事業部　次長
西原　延和　　株式会社上組　境港支店　支店長
景山　一夫　　鳥取県漁業協同組合　代表理事組合長
松本　美夫　　漁業協同組合ＪＦしまね　美保関支所　支所運営委員長
寺本　良次　　山陰中部地区小型船安全協会　事務局長

（オブザーバー）

坂口　恒久　　境水先区水先人会　副会長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
境海上保安部
中国地方整備局　港湾空港部
中国地方整備局　境港湾・空港整備事務所
中国運輸局　鳥取運輸支局
鳥取地方気象台
鳥取県県土整備部　空港港湾課
島根県土木部　港湾空港課
鳥取県境港水産事務所

5-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和元年８月１日（木）
(2)　場　　所：米子市　ＡＮＡクラウンプラザホテル米子
(3)　議　　題：
　①　バイオマス燃料輸送船の入港計画について
　②　調査・検討の計画（案）について
　③　境港の現況について
　④　航行環境について
　⑤　操船に係る基礎検討について
　⑥　操船の安全性（操船シミュレーション実施方案）について

Ⅰ－２　全国海難防止強調運動の推進

１　日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議

(1)　開 催 日：令和元年６月 17 日(月)

(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

(3)　出 席 者：別記のとおり

(4)　会議次第：

①　主催者挨拶

第九管区海上保安本部交通部　交通部長

②　議　　事

令和元年度　海の事故ゼロキャンペーン日本海中部地方実施計画

③　連絡事項

イ　第九管区海上保安本部　交通部

第九管区海上保安本部の取り組み

ロ　新潟海上保安部

新潟海上保安部における活動

ハ　信越総合通信局　無線通信部

船舶共通通信システム(国際 VHF)と簡易型船舶自動識別装置(簡易型 AIS)の設置状況

ニ　新潟漁業調整事務所

水産庁が行う漁船海難防止のための取り組み

ホ　新潟地方気象台

台風予報の改善

ヘ　その他

別　記　　出 席 者 名 簿　　(順不同・敬称略)

構成機関・団体			役　職　等	氏　　名
官公庁機関	信越総合通信局　無線通信部		航空海上課長	林　　賢二
	北陸信越運輸局　海事部		首席運航労務監理官	坂井　秀一
	北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所		沿岸防災対策室　沿岸防災対策官	松原　正伸
	新潟地方気象台		気象防災情報調整官	亀井　正久
	水産庁　新潟漁業調整事務所		漁業監督指導官	河上　拓史
	新潟県　防災局		危機対策課　主任	瀬賀　伸洋
	新潟県警察本部		地域課　警部補	村松　　賢
関係団体	船員災害防止協会　北陸信越支部		事務局長	齋藤　昌志
	公益社団法人北陸信越海事広報協会		常務理事	大井戸 佐紀夫
	北陸信越旅客船協会		常務理事	土井　秀樹
	一般財団法人日本気象協会　新潟支店		支店長	三嶋　宣明
	日本小型船舶検査機構　新潟支部		支部長	小林　　勝
	一般社団法人日本海事検定協会 新潟事業所		所長	糟谷　功一
	新潟県港湾協会		新潟県交通政策局港湾整備課 主事	有坂　　葵
	新潟県水難救済会		事務局長	関口　史洋
	新潟県漁業協同組合連合会		専務理事	清田　邦之
	新潟内航海運組合		理事長	阿部　正春
	新潟水先区水先人会		水先人	笹岡　昭二
主催	第九管区海上保安本部	交通部	部長	田中　一幸
			航行安全課　専門官	嶋田　大輔
			安全対策課　課長	青木　雄一
			安全対策課　安全対策調整官	中野谷　隆
			安全対策課　安全対策第一係長	石山　　稔
			安全対策課　安全対策第二係	関根　　康
		警備救難部	救難課　専門官	田原　芳洋
	新潟海上保安部		次長	本間　一三
			交通課　専門官	佐藤　　博
	公益財団法人海上保安協会 新潟地方本部		事務局長	髙野　成二
	公益社団法人日本海海難防止協会		専務理事	安藤　眞博
			事業部長	高野　　修
			事業部　主任調査員	花棚　景子
			事業部　調査員	村山　　香

(事務局：公益社団法人 日本海海難防止協会)

２　東北地方海難防止強調運動推進連絡会議

(1)　開 催 日：令和元年５月 30 日(木)

(2)　場　　所：塩釜市　塩釜港湾合同庁舎

(3)　出 席 者：別記のとおり

(4)　会議次第：

①　議長選出

②　議長挨拶

③　議　　事

第１号議案　平成 30 年度事業報告及び収支決算について

第２号議案　令和元年度事業計画について

その他　　東北地方海難防止強調運動推進連絡会議規則の一部改正について

多様化・活発化するウォーターアクティビティの一つとして、
ＳＵＰ（スタンドアップパドルボード）の概要を説明

別　記　　出席者名簿　　(順不同・敬称略)

団体・機関名	代表者	代理出席者
船員災害防止協会東北支部	支部長　佐藤　良典	事務局長　阿部　幸一
全日本海員組合東北地方支部	地方支部長　髙橋　雅幸	(副議長)
東北漁業無線協会	会長　大和田　洋光	欠席
東北港運協会	会長　徳永　政男	欠席
東北内航海運組合	理事長　平岡　清康	事務局長　木村　誠
東北旅客船協会	会長　白幡　昇一	事務局長　武内　伸之
一般社団法人　日本マリン事業協会東北支部	支部長　藤崎　雅実	(副議長)
ＮＰＯ法人 ﾊﾟｰｿﾅﾙｳｵｰﾀｰｸﾗﾌﾄ安全協会東北地方本部	本部長　中西　宏紀	事務局長　髙橋　勇貴
公益社団法人　東北海事広報協会	会長　佐藤　昭夫	(監事)
一般財団法人 日本海洋ﾚｼﾞｬｰ安全・振興協会東北事務所	所長　渡邉　章彦	欠席
一般財団法人　日本気象協会東北支社	支社長　安倍　俊明	総務課長　折坂　章子
株式会社　日本船舶職員養成協会東北	代表取締役　髙橋　雅洋	(監事)
日本舶用機関整備協会東北支部	支部長　荒井　誠二	事務局長　伊藤　隆雄
公益社団法人　日本海海難防止協会	会長　南波　秀憲	総務部長　木原　弘昭
公益財団法人　海上保安協会東北地方本部	本部長　丹野　光明	
一般社団法人　日本埋立浚渫協会東北支部	支部長　中村　俊智	事務局長　寒河江　利廣
青森県海難防止強調運動推進連絡会	会長　三津谷　廣明	青森県漁連指導課　主任　櫻田　栄喜
岩手地区海難防止強調運動推進連絡会議	議長　小川原　泉	釜石海上保安部交通課長　柴山　智司
宮城地区海難防止強調運動推進連絡会議	議長　伊藤　栄明	
秋田県海難防止強調運動推進連絡会議	議長　加賀谷　弘	秋田海上保安部交通課長　滝山　豊
山形県海難防止強調運動推進連絡会議	議長　齋藤　賢作	
福島県海難防止強調運動推進連絡会議	議長　中村　育世	福島海上保安部交通課長　錦部　忠幸
東北総合通信局	局長　田中　宏	無線通信部航空海上課長　松元　昭博
東北地方整備局	局長　髙田　昌行	港湾危機管理官　遠藤　美之
東北運輸局	局長　吉田　耕一郎	海上安全環境部調整官　藤原　淳英
仙台管区気象台	台長　山里　平	気象防災部次長　小野寺 優
運輸安全委員会事務局仙台事務所	所長　當間　寿	事故調査調整官　柳井　英治
仙台地方海難審判所	所長　志村　信三郎	欠席
第二管区海上保安本部	本部長　佐々木　幸男	

(事務局：公益財団法人 海上保安協会東北地方本部)

３　海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議

(1)　開 催 日：令和元年６月 18 日(火)

(2)　場　　所：舞鶴市　西駅交流センター

(3)　出 席 者：別記のとおり

(4)　会議次第：

①　日本海西部地方推進連絡会議議長　挨拶

②　第八管区海上保安本部長　挨拶

③　議　　事

(1)　平成 30 年度日本海西部地方海難防止強調運動の活動状況及び実施結果について

(2)　平成 30 年の海難発生状況について

(3)　令和元年度海の事故ゼロキャンペーン実施計画について

(4)　令和元年度日本海西部地方海の事故ゼロキャンペーン実施計画(案)について

(5)　連絡事項

別　記　　出席者名簿　　(順不同・敬称略)

団体・機関名等		役　職　等	氏　　名
構成員	公益財団法人　海上保安協会舞鶴地方本部	本部長 事務局長	西川　順之輔 一瀬　光孝
	公益社団法人　近畿海事広報協会	事務局長	中西　章夫
	公益社団法人　日本海海難防止協会		(欠　席)
	海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議 福井地区	代表	藤田　紀雄
	〃　京都地区	代表	松本　直樹
	〃　兵庫北地区		(欠　席)
	〃　境地区	代表代理（主事）	金田　　聡
	〃　石見地区	代表	宮下　義重
	北陸総合通信局	航空海上課長	遠藤　和孝
	近畿総合通信局	航空海上課長	山本　晶浩
	中国総合通信局	航空海上課長	松本　義明
	境港漁業調整事務所	次長	濵口　安行
	中部運輸局		(欠　席)
	近畿運輸局	首席運航労務監理官	田畑　浩一
	神戸運輸監理部		(欠　席)
	中国運輸局	首席運航労務監理官	徳永　　修
	近畿地方整備局	舞鶴港湾事務所副所長	三村　正樹
	運輸安全委員会事務局　神戸事務所	所長	澤木　純一
	〃　広島事務所		(欠　席)
	神戸地方海難審判所	所長	榎木園 正一
	広島地方海難審判所		(欠　席)
	大阪管区気象台	気候変動・海洋情報調整官	根本　和宏
	第八管区海上保安本部	本部長	伊藤　裕康
関係職員	第八管区海上保安本部警備救難部	救難課長	小笠原 靖
	第八管区海上保安本部交通部	交通部長 航行安全課長 安全対策課長 〃　安全対策調整官 〃　安全対策第一係長 〃　安全対策第二係長 〃　海上安全情報官付	金城　政彦 梅原　　昇 近藤　正雄 増田　直之 小坂　和彦 大井　昭彦 西尾　亮太
	敦賀海上保安部	次長	岩崎　信之
	舞鶴海上保安部	次長	長澤　幸二
	境海上保安部	次長	佐々木昭栄
	浜田海上保安部	次長	岩谷　　久
	香住海上保安署	次長	宮内　　均

(事務局：公益財団法人 海上保安協会舞鶴地方本部)

Ⅱ　会 務 報 告

Ⅱ－１　令和元年度１回理事会

１　開 催 日　　令和元年５月 14 日(火)

２　場　　所　　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟
　　新潟市中央区万代５丁目 11 番 20 号

３　理事の現在数、出席者数

(1)　理事の現在数　　23 名

(2)　出席者数

出席理事　　14 名

監　　事　　２名

４　議事次第

議　事

決議事項

第１号議案　平成 30 年度の事業報告及び決算の書類の承認について

第２号議案　役員候補者の選任について

第３号議案　顧問の委嘱について

報告事項

業務を執行する理事の職務の執行の状況について

５　議事の経過及びその結果

(1)　定足数の確認

事務局から定款第 38 条に定める定足数を満たしている旨の報告がなされた。

(2)　議長及び議事録の署名

定款第 37 条の規定に基づき南波会長が議長となり、議事録の署名は定款第 42 条の規定に基づき、南波会長（代表理事)、水野監事、小畑監事とした。

(3)　議案の審議状況及び議決結果等

第１号議案　平成 30 年度の事業報告及び決算の書類の承認の件

議長の求めに応じ、事務局から平成 30 年度の事業報告及び決算の書類について説明した。

議長は、監事に監査報告を求め、水野監事より監査報告書のとおり指摘すべき事項はない旨報告があった。

次いで、議長が承認を諮り、審議の結果出席理事全員異議なく平成30年度の事業報告及び決算の書類を原案のとおり総会に上程することに決した。

第２号議案　役員候補者の選任の件

議長から協会理事の任期は２年間で今年度が改選となる旨を説明し、「役員候補者名簿」のとおり選任することについて諮り、審議の結果出席理事全員異議なく原案のとおり総会の承認を得ることに決した。

第３号議案　顧問の委嘱の件

議長から顧問の任期切れのため２名の委嘱について諮り、審議の結果出席理事全員異議なく原案のとおり委嘱することに決した。

報告事項

業務を執行する理事の職務の執行の状況について事務局から報告した。

Ⅱ－２　令和元年度通常総会

１　開 催 日　　令和元年６月 11 日(火)

２　場　　所　　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟
　　新潟市中央区万代５丁目 11 番 20 号

３　正会員総数及び定足数

総数　212 名、定足数　107 名

４　出席者数及び出席役員等

(1)　出席正会員　59 名（うち代理出席者 21 名）
(2)　書面表決　正会員　137 名
(3)　来賓
　第九管区海上保安本部長　廣川　隆　様
　北陸信越運輸局長（代理：海事部長）伊藤　義久　様

５　挨拶等

南波会長の挨拶に続いて、来賓の第九管区海上保安本部本部長と北陸信越運輸局海事部長から祝辞があった。

６　議案

決議事項
　第１号議案　平成 30 年度の事業報告及び決算の書類の承認について
　第２号議案　役員の選任について
報告事項
　平成 31 年度の事業計画書及び収支予算書等について

７　議事の経過及びその結果

(1)　定足数の確認

事務局から定款第 18 条に定める定足数を満たしている旨の報告がされた。

(2)　議長及び議事録

定款第 16 条の規定に基づき南波会長が議長となり、議事録には、議長及び五十嵐理事、小坂理事が署名又は記名押印することとした。

(3)　議案の審議状況及び議決結果等

第１号議案　平成 30 年度の事業報告及び決算の書類の承認の件
議長の求めに応じ、事務局から平成 30 年度の事業報告及び決算の書類について説明した。
議長は、監事に監査報告を求め、水野監事から監査報告書に記載したとおり適正である旨報告があった。

次いで、議長はその賛否を議場に諮ったところ、満場一致で異議なく承認された。書面での表決は賛成136名であった。

第２号議案　役員候補者の選任の件

議長から「役員候補者名簿」のとおり役員を選任することの賛否を議場に諮ったところ、満場一致で異議なく添付の別紙「役員候補者名簿」のとおり選任することに決した。書面での表決は賛成136名であった。

なお、役員の任期は、定款第27条の規定により、令和３年開催の通常総会の終結の時までである旨を告げ、新役員は全員就任を承諾した。

報告事項

議長から平成31年度事業計画及び収支予算等については、平成31年３月５日に開催した第２回理事会において承認された旨を告げ、資料に基づき平成31年度事業計画及び収支予算等を事務局から報告した。

別　紙

役　員　候　補　者　名　簿

（任期：令和元年度通常総会終了時～令和３年度通常総会終了時）

（順不同・敬称略）

【理事】

理事	南波　秀憲	株式会社リンコーコーポレーション 代表取締役社長	重任
理事	西宮　公平	秋田海陸運送株式会社 代表取締役社長	重任
理事	川西　邦夫	伏木海陸運送株式会社 代表取締役社長	重任
理事	宮下　義重	浜田港運株式会社 取締役会長	重任
理事	安藤　眞博	公益社団法人日本海海難防止協会	重任
理事	相場　　斉	株式会社本間組 土木事業本部部長	重任
理事	五十嵐由之	東和造船株式会社 代表取締役	重任
理事	植木　　豊	株式会社植木組 執行役員新潟支店長	重任
理事	岡本　幹男	新潟水先区水先人会 会長	新任
理事	木下　　博	七尾水先区水先人会 会長	重任
理事	清田　邦之	新潟県漁業協同組合連合会 専務理事	重任
理事	坂本　和彦	株式会社三国 代表取締役	重任
理事	佐藤　裕市	東北電力株式会社東新潟火力発電所 所長	新任
理事	志田　知隆	株式会社加賀田組 常務執行役員営業本部長	重任
理事	真保　髙弘	佐渡汽船株式会社 取締役	新任
理事	武田　眞二	日本海エル・エヌ・ジー株式会社 取締役社長	新任
理事	西川順之輔	京都府漁業協同組合 代表理事組合長	重任
理事	日野　雅博	東亜建設工業株式会社北陸支店 支店長	重任
理事	細川　英邦	株式会社細川産業 代表取締役	重任
理事	松浦　安洋	酒田水先区水先人会 会長	重任
理事	丸山　裕司	北越物流株式会社 代表取締役社長	新任
理事	森脇啓治郎	境水先区水先人会 会長	重任
理事	山田　浩一	東洋建設株式会社新潟営業所 所長	重任

【監事】

監事	小畑　　修	富士運輸株式会社 専務取締役	重任
監事	水野　雄司	日本海曳船株式会社 代表取締役社長	重任

Ⅱ－３　令和元年度２回理事会

１　開 催 日　　令和元年６月 11 日(火)

２　場　　所　　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟
　　新潟市中央区万代５丁目 11 番 20 号

３　理事の現在数、出席者数

(1)　理事の現在数　　23 名

(2)　出席者数

出席理事　　16 名

監　　事　　2 名

４　議　案

決議事項

議　案　業務執行理事の選定について

５　議事の経過及びその結果

(1)　定足数の確認

事務局から定款第 38 条に定める定足数を満たしている旨の報告がされた。

(2)　議長及び議事録の署名

定款第 37 条第２項の規定に基づき出席理事の互選で南波理事が議長となり、議事録には代表理事及び水野監事、小畑監事が署名又は記名押印することとした。

(3)　議案の審議状況及び議決結果等

議長の求めに応じ、事務局から業務執行理事の候補者について説明した。

次いで、議長が、候補者選定を諮り、審議の結果出席理事全員異議なく原案のとおり代表理事会長に南波秀憲理事を、副会長に西宮公平理事、川西邦夫理事、宮下義重理事を、専務理事に安藤眞博理事を選定することに決した。

なお、選定された業務執行理事は全員就任を承諾した。

Ⅱ－３　業務日誌抄

月　　日	内　　容
５月 14 日(火)	令和元年度　第１回理事会　(新潟市)
５月 16 日(木)	酒田港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査　第１回委員会　(酒田市)
５月 30 日(木)	令和元年度　東北地方海難防止強調運動推進連絡会議　(塩釜市)
６月 11 日(火)	令和元年度　通常総会及び第２回理事会　(新潟市)
６月 17 日(月)	令和元年度　日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議　(新潟市)
６月 18 日(火)	令和元年度　海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議　(舞鶴市)
６月 26 日(水)	秋田県北部洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査 第１回委員会　(秋田市)
７月　４日(木)	鳥取港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査　第１回委員会　(鳥取市)
７月　４日(木)	令和元年度　防災気象連絡会　(新潟市)
７月 10 日(水)	日本海西部海域における簡易型ＡＩＳ普及に関する調査研究 (福井県・京都府及び兵庫県地区)　第１回委員会　(舞鶴市)
７月 18 日(木)	秋田県北部洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査 視認シミュレーション　(東京都)
８月　１日(木)	境港(外港昭和南地区)大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討 第１回委員会　(米子市)

Ⅱ－４　業務予定

内　　容		予　定　月　日
(1)	秋田県北部洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査　第２回委員会	令和元年　９月　10 日
(2)	能代港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査　第１回委員会	令和元年　９月　26 日
(3)	境港（外港昭和南地区）大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討　ビジュアル操船実験	令和元年　９月　30 日 10月　１日
(4)	鳥取港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査　第２回委員会	令和元年　10月　９日
(5)	令和元年度　全国海難防止団体等連絡調整会議	令和元年　11月　７日 ～　８日
(6)	境港港湾計画改訂に伴う安全性検討　第１回委員会	令和元年 11 月　13 日
(7)	境港（外港昭和南地区）大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討　作業部会	令和元年 11 月　14 日
(8)	秋田県北部洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査　第３回委員会	令和元年 12 月　上旬
(9)	能代港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査　第２回委員会	令和元年 12 月　中旬
(10)	会報第 128 号発行	令和２年　１月　下旬

Ⅲ　海保安全情報

第二管区海上保安本部交通部　安全対策課

東北地方における海の事故ゼロキャンペーンの活動について

本年も７月 16 日（火）から７月 31 日（水）までの 16 日間、「海難ゼロへの願い」をスローガンに皆様と共に「令和元年度海の事故ゼロキャンペーン」を行いました。

ここ東北においては、全国の重点事項

①　「小型船舶の海難防止」

②　「見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進」

③　「ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保」

のほか、東北地方における独自の重点事項３つを加え、活動しました。

④　「簡易型ＡＩＳの活用による衝突海難防止の取り組み」

東北地方における 30 年度の衝突海難 23 隻のうち半数が漁船を占め、原因が見張り不十分であったのが 14 隻と全体の６割でした。

簡易型ＡＩＳの搭載が比較的少ない秋田県や山形県の漁業関係者、漁業協同組合等に対し簡易型ＡＩＳの導入を働きかけるとともに、漁船を訪問するなど効果的な海難防止に関する安全指導を行いました。

⑤　「多様化・活発化するウォーターアクティビティの海難防止」

全国的にウォーターアクティビティが多様化・活発化しており、青森県や山形県においてもＳＵＰ（スタンドアップパドルボード）の活動が認められてきている等、東北地方においてもこれらアクティビティに係る海難発生の蓋然性が高くなってきていることから、アクティビティごとに事故防止のための情報等が掲載された総合安全情報サイト「ウォーターセーフティガイド」の周知啓発を図りました。

➢ サップ

スタンドアップパドルボード（ＳＵＰ）の略。
ボードの上に立ち、パドルを使って漕ぐ遊具。
ボード長さは 250㎝～350㎝ 程度が普通だが、
400㎝ 以上の複数名乗りも存在。

⑥　「津波避難に関する啓発」

船舶関係者やウォーターアクティビティを楽しむ方々に対して、今後、想定されている東北地方太平洋沖等における地震発生に伴う津波のリスクと、「人命を第一に考えた津波避難行動」に係る留意点等について、安全指導を行いました。

管区本部及び管内各海上保安部署では、テレビやラジオ等を活用した広報活動のほか、海難防止に関する安全指導、海難防止講習会や海上安全教室における海難防止に関する安全教育・訓練等のキャンペーン活動を東北各地で行いました。

７月９日（火）には、㈱楽天野球団のご協力もいただき、「楽天イーグルス 対 オリックス」戦の公式試合前、楽天生命パーク宮城（宮城県仙台市）に第二管区海上保安本部の特設ブースを設置し、ポスター掲示による周知活動とともに、制服・救命胴衣試着、リーフレット配布等のキャンペーン活動を行いました。

当日は、楽天球団創設年以来の１０連敗という記録の中、今季、故障により戦線を離脱していた楽天イーグルスのエース則本選手の復帰戦となり、地元宮城県内はもとより青森県、秋田県や山形県等東北各県から勝利を願った多くのファンが集うこととなり、約２万５千人の来場者に対してＰＲ活動を実施することができました。

〔制服・救命胴衣試着、リーフレット配布〕

また、「うみまるとのじゃんけん大会」では、景品の楽天オリジナルマフラータオルやポケットテイッシュ等を求め長蛇の列ができる中、「(海の）事故ゼロ願ってじゃんけんポイッ！」とのリズミカルな合言葉が大声量で飛び交うなど、大変な盛況振りとなりました。

〔うみまるとのじゃんけん大会〕

なお、試合は楽天イーグルスの勝利に終わり、ファンの方からは「うみまるくんの声援のおかげです。」との喜びの言葉を頂いております。

このほか、スタジアム内の楽天 kobo ビジョンには、同日から７月２５日（木）までの計８日間、試合開始前に複数回、場内アナウンスと共に海難防止啓発に係る映像を表示し、東北各県等からの延べ約２０万人の来場者の方々に対し、海難ゼロへの願いを届けました。

〔スタジアム内の楽天 kobo ビジョンに映像表示〕

しかしながら、同キャンペーン期間中には、青森県陸奥湾においてサップ使用中の４名の方が沖に流され当庁のヘリ等に救助されるなど、活発化するウォーターアクティビティも含め多くの海難が発生していることから、今後も「海難ゼロへの願い」をスローガンに、官民一体となって国民に対し海難防止思想の普及・高揚を図り、もって海難の未然防止に繋げて行くことが必要です。

第二管区海上保安本部は、引き続きより一層船舶交通の安全・安心を目指し邁進する所存ですので、日本海海難防止協会会員及び関係の皆様には変わらぬご支援をお願い申し上げます。

青森海上保安部、秋田海上保安部、酒田海上保安部での主な活動状況

日　　時	部　　署	概　　要
7 月 9 日（火）	秋田保安部	漁協、マリーナ等への海難防止啓発活動（ポスター配布）
7 月 11 日（木）	青森保安部	青い森鉄道※各駅への海難防止啓発活動（ポスター配布） ※青い森鉄道線は、青森ー岩手県境に近い目時～青森間の 121.9㎞の路線で、27 の駅があります。
〃	秋田保安部	地元小学生を対象に安全教育を実施
7 月 13 日（土）	秋田保安部	水難救済会海難救助訓練時に海難防止講習会を開催
7 月 14 日（日）	青森保安部	ＲＡＢラジオ生放送への出演（海難防止啓発の呼びかけ）
7 月 15 日（月）	秋田保安部	プレジャーボート体験乗船会時に安全教育を実施
〃	酒田保安部	酒田北港緑地展望台における海難防止啓発の呼びかけ
7 月 17 日（水）	青森保安部	関係機関と連携した海難防止啓発活動（ポスター配布）

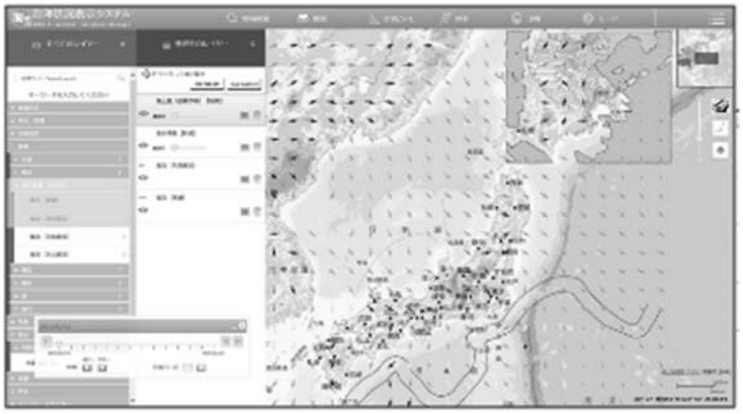
日　　時	部　　署	概　　要
7 月 18 日（木）	青森保安部	海事関係機関に対する海難防止啓発活動（ポスター配布）
7 月 19 日（金）	秋田保安部	プレジャーボート団体に海難防止講習会を開催
7 月 20 日（土）	青森保安部	ボート天国における海難防止啓発活動
〃	秋田保安部	秋田港北防波堤釣り試験開放での海難防止啓発の呼びかけ
〃	秋田保安部	海の家合宿における小学生を対象に安全教育を実施
〃	酒田保安部	大浜海岸等における海難防止啓発の呼びかけ
7 月 23 日（火）	青森保安部	漁協組合員を対象に海難防止講習会を開催
7 月 25 日（木）	青森保安部	高校生職場体験学習時に安全教育を実施
7 月 27 日（土）	酒田保安部	小型船舶安全協会訓練時に海難防止講習会を開催
7 月 28 日（日）	青森保安部	スイミングスクール生を対象に安全教育を実施
〃	酒田保安部	酒田みなとアオシスまつりでの海難防止啓発の呼びかけ
7 月 30 日（火）	秋田保安部	保育園児職場体験学習時に安全教室を実施
7 月 31 日（水）	青森保安部	海難防止技術競技会事前訓練時に海難防止講習会を開催
〃	秋田保安部	海水浴場遊泳者に対する海難防止啓発の呼びかけ

第九管区海上保安本部海洋情報部　監理課

海の今を知るために

海上保安庁では第３期海洋基本計画に基づき、ＭＤＡ（海洋状況把握）能力強化の一環として、海洋台帳の発展系システムである海洋状況表示システム、愛称「海しる」の運用を４月 17 日に開始しました。

従来の海洋台帳に比べ、情報のリアルタイム性、広域性を高めたシステムであり、生産性の向上、新たな産業の掘り起こし、マリンレジャーの安全対策等に活用されることが期待されています。



右図は「海しる」で海上風の分布を表示した例ですが、身近な日本海での使用例としては、大和堆付近を拡大させて表面水温の推移を色分けして表示するといった利用ができます。

また、計測や作図の機能もあり、二点間を大圏航路の距離で計測できるようになっています。

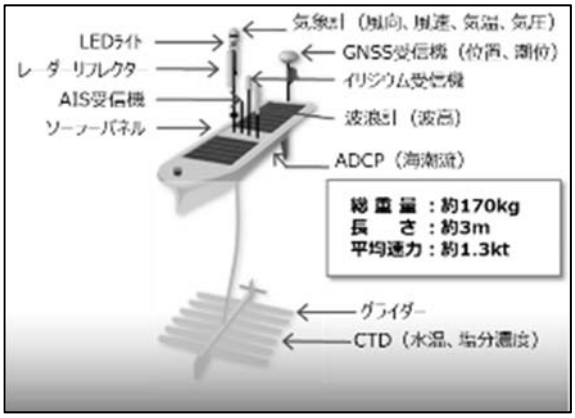
例えば、東京からサンフランシスコまでの距離が大圏航路で計測され、画面の地図上においても直線ではなく曲線で表示されます。

「海しる」は以下のアドレスからご利用ください。
https://www.msil.go.jp

第九管区海上保安本部海洋情報部　海洋調査課

自律型海洋観測装置（ＡＯＶ）による観測のお知らせ

第九管区海上保安本部では日本海中部海域において自律型海洋観測装置（ＡＯＶ(注) 愛称：「のどぐろ」）の観測を実施しております。今年度の観測期間は６月～１１月を予定しております。ＡＯＶの観測データを広く一般にご活用していただくために、ホームページ上に掲載しております（下図参照）。船舶の安全な運航等にぜひご活用ください。



(注) AOV：Autonomous Ocean Vehicle

第九管区海上保安本部海洋情報部ホームページのＡＯＶ観測情報

※ ＡＯＶ観測は第七・八・十・十一管区海上保安本部でも実施しており、
上のホームページでデータはご覧いただけます。

Ⅳ　寄 稿 欄

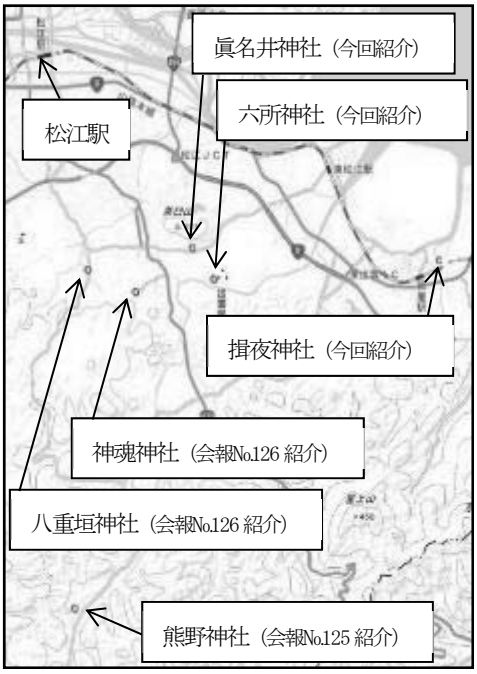
意宇六社巡り　－その３－

元舞鶴事務所長　山本勝眞

前回までに意宇六社（おうろくしゃ）のうち三つのお社、すなわち熊野、神魂（かもす）、八重垣のそれぞれの神社と神社にまつわるお話をしてまいりましたが、今回は、第３弾として、残りの三社について紹介したいと思います。

その神社は、六所（ろくしょ）神社、揖夜（いや）神社、眞名井（まない）神社の三社です

以前にもお話しましたが、古代出雲の国は現在の出雲地方ではなく、宍道湖の東、現松江市内の南寄りを中心に、島根県の東部に栄えた強大な国家で、古事記・日本書紀の神話に多くの記述があることからも、古代日向国とともに、大和国以前２世紀ごろに栄えていたのではないかと考えられています。



本地図は「地理院地図(GSI Maps)」から編集。

まず、六所神社から話を進めてまいりましょう。この神社は松江市大草町の出雲国府跡遺跡のすぐそばに鎮座されており、田畑の真ん中のこんもりとした杜の中にあります。

鳥居は木造明神形で、本殿の千木は外そぎ、勝男木は奇数の３本。つまり男性の神様を表す特徴を示しています。もちろん大社造りのお社です。

六所神社は、意宇六社の一の宮で、古くから六所さんとも称され崇敬されてきたそうです。

出雲国府跡遺跡

皆様は、もちろん暦の 11 月の別称を「神無月」と呼ぶことをご存じですが、これは全国の神々が、出雲にお集まりになるとの故事からそう呼ばれるのでありまして、出雲では「神有月」と呼ばれています。

陰暦 10 月出雲へお集りになる全国の神々は、先ず当社へお集まりになってから会議場所の佐太神社（松江市内）へおいでになるのだということが、佐太神社の記録にもあり、六所神社も、神在祭（かみありさい）が行われていたそうです。

六所神社石碑

そのように、この神社は「出雲国総社」という社格を有していて、このあたりの神社を管理・統括していた神社であります。

当社の神紋は、亀甲に「有」の文字ですが「有」を分解すると「十」「月」となるといった面白い話もあります。

もっとも 10 月に全国の神様がお集まりになるとのいわれは、時代がずーっと下ってからのことで、もとは出雲の国譲りの後、出雲地方を統治した猿田彦尊（さるたひこのみこと）が域内 180 余りの集落の長（神）を、佐多神社に呼んで会議を開かれたのが事の始めで、そのことが後世日本国中の神々がお集りになるということになったのだということであります。

ご祭神は、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）、伊弉冉尊（いざなみのみこと）、天照大神（あまてらすおおみかみ）、月夜見尊（つきよみのみこと）、素戔嗚尊（すさのおのみこと）、大己貴尊（おおあなむちのみこと）であります。

六所神社本殿

古事記神話によれば、天照大神、月夜見尊は、伊弉諾尊が黄泉の国（よみのくに）からお戻りになり阿波岐原で禊をされたおり、左目から天照大神、右目から月夜見尊、鼻から素戔嗚尊がそれぞれお成りになったとあります。

「古事記原文『於是、洗左御目時、所成神名、天照大御神。次洗右御目時、所成神名、月讀命。次洗御鼻時、所成神名、建速須佐之男命。』・・と」

まあ話としては面白くても、このような話は現実にはあり得ないわけでありまして、実のところは、天照大神は大日霊女貴尊のことで伊弉諾尊、伊弉冉尊のお子神様、つまり日向系の方。素戔嗚尊は布都御魂のお子神様で出雲系の方。大己着尊は、素戔嗚尊のお子神さま須世理姫の養子さんです。月夜見尊に比定する方は、実在がはっきりしないというのが実際のところ（原田常治著「古代正史」による）のようです。

次に揖夜神社です。

この神社は、松江市東出雲町揖屋に鎮座されており『出雲国風土記』によれば、伊布夜（いふや）社として記載されている古社とあります。

揖夜神社本殿

『古事記』によると伊弉諾尊は、亡き妻神伊弉冉尊を慕って黄泉の国へ行かれたという話の中で、黄泉の国の入口黄泉比良坂は、出雲国の伊賦夜坂であったと書かれています。もちろん神話の世界ですので、現実にはあり得ない内容ではありますが・・・。

以下は、古事記が伝えるところの、伊弉諾尊が、黄泉の国から逃げ帰られたとき、黄泉の国（死者の世界）との国境で追っ手を封じるために大石で蓋をしたくだりの原文です。

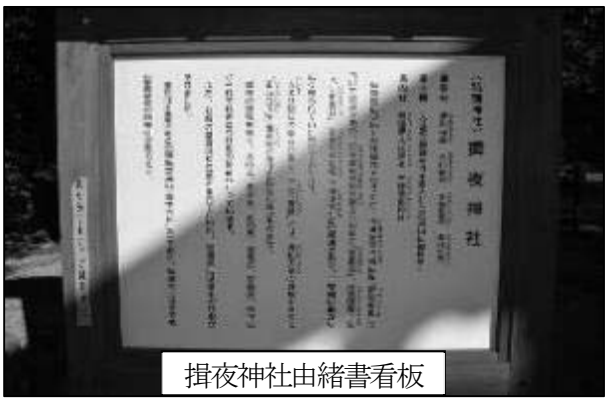
「古事記原文『亦云、以其追斯伎斯此三字以音而、號道敷大神。亦所塞其黄泉坂之石者、號道反大神、亦謂塞坐黄泉戸大神。故、其所謂黄泉比良坂者、今謂出雲國之伊賦夜坂也。』」

つまり、黄泉比良坂は出雲の国の伊賦夜坂であるというわけですね。

わたしは、ずーっと以前から、古事記（また日本書紀）の記述は、７世紀の終わりから８世紀の初めにかけて、当時の為政者（日向系）により編纂され、主に日向系神様の偉功を中心に書かれていて、必ずしも相いれないと思ってはいますが、黄泉比良坂が出雲の国にあるのだというあたりは、素戔嗚尊や饒速日尊の存在と合わせて、どうしても出雲国をないがしろにできない理由があったのだと、大変面白いとは思うのです。

神社と山を挟んで反対側の揖屋町平賀に「神蹟黄泉比良坂伊賦夜坂伝説地」の石碑が建っているそうなのですが、残念ながら訪れることができませんでした。

本殿は大社造りで、神殿配置は神魂神社と同じく、神座は左から右に向かっている（出雲大社と反対）のが特徴です（由緒書看板記述による）。またこれも見学はできませんでしたが、内壁には、五色の極彩色の神事の障壁画（県文化財）が描かれているそうです。


揖夜神社由緒書看板

鳥居は石造り明神型、千木は内そぎで女神さまの特徴を表しています。

ご祭神は、伊弉冉尊、大己貴尊、少彦名尊（すくなひこなのみこと）、事代主尊（ことしろぬしのみこと）とあります。

少彦名尊は大国主命（大己貴尊）を助けて出雲の国の経営にご尽力された。

また事代主尊は大己貴尊のお子神様です。

境内社の案内

境内社としては、本殿向かって左に「韓国伊太氏（からくにいたて）神社（五十猛尊（いたけるのみこと））」、右側に「美穂津姫（びほつひめ）神社」がお祀りされています。

五十猛尊は、素戔嗚尊のお子神（ご二男）、美穂津姫（別称多紀理姫）は、大己貴尊の日向における妻神様で事代主尊の母神様であります。

最後に眞名井神社です。

眞名井神社の鳥居と石碑

島根県松江市山代町字伊弉諾 84 鎮座のこの神社は、拝殿が島根県指定建造物です。急勾配の石段を登ったところに神社があります

鳥居は石段を登る前にあり、木製明神形　本殿は大社造り、千木は外そぎ、勝男木は３本で男神様を祀る神社の特徴をあら合わしています。

揖夜神社が女神伊弉冉尊を祀っておられるのに対し、こちらは伊弉諾尊を祀っていて、お二人はご夫婦であります。

また境内の掲示板には

「県指定建造物　真名井神社本殿　昭和 49 年 12 月 27 日指定

社殿は、本殿、中門、拝殿、神楽殿、境内社からなる。本殿は大社造り檜皮葺(ひわだぶき)で周囲に透塀(すきべい)をめぐらす。」

「当社は出雲国風土記にいう『真名井社』、延喜式に記す『真名井神社』で、古い歴史をもつ意宇六社の一社である云々。」と書かれていました。

真名井神社掲示板

また、「祭神は伊弉諾尊・天津彦根(あまつひこねのみこと) 尊（山代直の祖）である。」・・・とも。

さらには、「背後の山は神名樋山(かんなびやま)（火山）で出雲国四神名樋山の一つで、東山麓に真名井の滝を存す。」

などと説明がなされています。

この滝は、高さ 30 メートル余りの枯れることのない、小さな美しい滝らしいなのですが、残念ながら訪れることができませんでした。

真名井神社本殿の屋根

境内社としては、本殿に向かって右に末那為(まない)神社、向かって左に児守(こもり)神社（宍道若宮社・山代神社･荒神社合祀）があります。

末那為社のご祭神は宇迦御魂（お稲荷様）とありました。

昨年 11 月４日、５日の２日間にわたってめぐってきました意宇六社に祀られている神々を改めてみてみますと、それぞれに天孫族（日向系）と出雲系の偉大な神々が、ここに祀られています。

九州地方には、素戔嗚尊と饒速日尊を祀る八阪神社が圧倒的に多いこと、出雲の国（現松江市）に多くの天孫族の神々が祀られていることなどを考え合わせると、今回の意宇六社巡り

は、改めて出雲の国が大和朝廷建国以前の古代日本国にとって、いかに大きな存在であったかと思いしらされます。

今回は、私が廻った意宇六社にスポットをあてて紹介しまたが、実はこのあたりには、まだ相当の数の神社が存在します。

魏志倭人伝の記述から、おそらく邪馬台国は南九州日向地方（異説はたくさんありますが）にあったもので、出雲の国が中心であったとは言いませんが、大和朝廷建国に大きな影響力があったことは容易に想像できるのです。

この稿を書き終えた今日は、７月 12 日。くしくも昭和 59 年の今日、出雲の荒神谷遺跡で 358 本もの銅剣が発見され、古事記神話に封じ込まれ存在が疑問視されていた、古代出雲の国が現実のものとなった記念すべき日であります。

３回にわたって紹介した「意宇六社巡り」の稿を終わりにします。

※　本寄稿のバックナンバーは、当協会ホームページ、事業紹介、会報の発行を参照。

http://nikkaikb.com/

「正確な気象の判断　早めの避難」

「航海の無事を支えるあなたの見張り」

会　　報　　第１２７号

令和元年９月発行

発 行 所　新潟市中央区竜が島１丁目９番２号
公益社団法人　日本海海難防止協会
〒950－0072
電　話（025）247－8531
ＦＡＸ（025）247－0316
E-mail nikkaikb@poem.ocn.ne.jp
URL　http://nikkaikb.com/
印 刷 所　株式会社 ウィザップ